

地域と人を愛せる文化に

城南中でオレンジリボンの授業

新宮市

新宮市立城南中学校（中田善夫校長、生徒171人）で11日、各学年を対象にした「オレンジリボン」の授業があった。生徒たちは児童虐待などへの学びを深めた。



児童虐待などについて話し合う生徒＝11日、新宮市立城南中学校

11月の児童虐待防止月間であるオレンジリボンキャンペーンは、2004（平成16）年に栃木県で子どもが虐待を受け、命を奪われた事件をきっかけに始まった。同校では子どもたちを保護者の温かい気持ちで包み、やがて子どもたちが守ってあげられる側の人間に成長してほしいとの願いから取り組みを開始し、今年で6年目。生徒にとってはオレンジリボンを通じて保護者の気持ちを受け取り、児童虐待防止に関して学ぶ機会となっている。先月22日には、保護者や教職員がリボン約200個を制作した。

2年生61人の授業では、森浦展行・主幹教諭

が復習を兼ね、社会運動に対して支援や賛同を表す「アウェアネス・リボン」の色や意味を説明。生徒は12班に分かれ「あなたにとって、大切なものは？」この世の中からなくなればいいと思うものは？」の問いに意見を話し合った。金田あすかさん（14）は「報道などで耳にするたびにつらい思いになっていました。優しさや人を敬う気持ち、助け合いを忘れず、いろんな意味で平和な世の中になってほしいです」。小口篤紀君（14）は「日本をはじめ、世界でも心を痛めることがあることを改めて感じ、知らないことがたくさんあった。先生や家族からのメッセージを目にして愛情を感じ、その言葉を支えにしていきたい」。森浦主幹教諭は「生徒たちの真剣に耳を傾ける姿が見られました。それぞれの考えを出し合い、内容の重要さを理解しながら取り組みでいた。授業を通して温かい気持ちになってもらい、地域と人を愛せる文化をつくっていただければ」と話していた。（榮本康人）